

調書の見方

第4次総合計画 施策の評価シート

大綱 8 行政経営

政策 1 行政資源の効果的活用

評価対象年度 令和4年度

<取組内容>

施策	基本計画本文
施策を構成する管理事業	施策の取組状況
8-1-1 効果的・効率的な行政運営の推進	行政評価の取組を強化しながら、その結果を実施計画、予算に反映し、行政課題に効果的・効率的に対応します。また、大阪府からの権限移譲や、近隣自治体などの広域連携に努めるとともに、簡素で効率的な行政組織の構築を図ります。
1 企画政策事業 2 行財政改革推進事業 3 財政事務事業 4 5 6 7 8 9 10	<p>行政評価において、施策の推進及び効果的かつ効率的な事業実施に資する評価となるよう、事業別財務諸表において事業の成果（実績）を図る指標を見直すとともに、管理事業を構成する予算事業の評価シートの記載内容を充実し実施しました。</p> <p>の手續に係る押印について、法令に義務付けなどがあるものなどの進めました。</p> <p>活用するため、全庁的に業務量の削減に努めるとともに、業務量に組みました。また、市の健康・医療政策をより効果的、効率的に推進するため、令和4年4月に健康医療部の組織</p> <p>・財政事務事業については、予算編成や執行管の残高及び公債費比率は、目標を達成していま</p> <p>基金</p>
	<p>〔施策〕 「施策」の名称を記載しています。</p> <p>〔基本計画本文〕 施策の主な目的や方向性を記載しています。</p>
8-1 施策を構成する管理事業	建築物のほか、道路や上下水道なども含めた公共施設について、日
1 財産管理事業 2 資産経営事業 3 4 5 6 7 8 9 10	<p>〔施策の取組状況〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価対象年度に施策の推進のために取り組んだ内容のうち代表的なものを記載しています。 ・評価実施時点で、施策の課題に対応したものがあれば、その旨記載されている場合があります。 ・必要に応じ、次ページに記載している施策の進捗状況の評価についての説明を行います。 <p>のを 建 イ 行 し</p>
8-1-3 人材育成の推進	時代の変化を見据えながら、行政課題に適切かつ柔軟に対応できる職員を育成するとともに、職員が能力を発揮できる組織づくりを行うため、市民対応能力や政策立案能力の向上などを目的とした職員研修の充実や人事評価制度の活用などを進めます。
1 人事管理事業 2 3 4 5 6 7 8 9 10	<ul style="list-style-type: none"> ・施策指標「職員1人当たりの年間研修受講回数」については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための研修参加人数の制限などの影響があり、目標値を大きく下回りましたが、動画研修やオンライン研修等の実施により、令和2年度よりも受講者数が増加したことから、進捗状況は「B」としました。 ・人事主催研修では、集合研修に加えて、動画研修やオンライン研修を行い、契約事務や文書事務等の実務基礎能力研修でも、一部を動画研修に変更するなど、受講時間確保の負担や感染症拡大予防による制約をできる限り軽減し、より多くの職員が受講できる環境を整えることで、受講者数が増加しました。 ・実務基礎能力研修では、市のシステム上で研修内容の習熟度を自己チェックできる「実務基礎能力習熟度チェック」を行い、若手職員の事務処理能力の向上を図りました。 ・「接遇研修」「主体性発揮研修」等により、職員の市民対応能力や政策立案能力の向上を図りました。 ・人事評価制度においては、自らの業務の年度内で達成すべき目標を掲げ、自己評価や上司の評価、面談などを通じて、被評価者の次年度以降の更なる成長につながる「気づき」を与えるとともに、組織のマネジメントにも生かしています。
8-1-4 ICTの利活用	市民の利便性の向上や行政運営の効率化を図るため、ICTの利活用を進めます。また、災害発生時などにおける行政サービスの継続性を確保するとともに、情報セキュリティの脅威に対応するため、情報システムの強化を図ります。
1 情報システム運用事業 2 3 4 5 6 7 8 9 10	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の拡大を機に「新しい働き方」への移行に対応できるよう、テレワークシステムやオンライン会議システムの導入を行いました。 ・テレワーク時においても職員間のコミュニケーションを効率的に行うため、職員向けチャットツールの利用ライセンスを追加調達いたしました。 ・教育・保育施設運営支援システムの導入に合わせ、公立保育所等へのパソコンやタブレット端末の導入を行いました。 ・今後も、情報セキュリティを十分確保しながら最新のICT技術を導入することで、多様化する市民ニーズへの対応と行政内部事務の効率化を推進していく必要があります。 ・施策指標「ICTを活用した行政サービスの稼働休止時間」については、大きなシステム障害等はなく、年間を通じて安定的な稼働ができたことから、進捗度を「A」としました。

調書の見方 第4次総合計画 施策の評価シート

大綱 8 行政経営

政策 1 行政資源の効果的活用

評価対象年度 令和4年度

< 施策指標等の推移 >

8-1-1 効果的・効率的な行財政運営の推進		[目標 (令和10年度)] 計画最終年度の令和10年度の施策指標の目標値を記載しています。										目標 (令和11年度)
施策指標 1		財政調整基金残高 (単位: 億円)										100億円
年度	策定時 (平成28年度)	(平成30年度)	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
実績	106	122	134	128	130							
進捗状況		A	A	A	A	A						
施策指標 2		[施策指標] 施策指標の名称と単位を記載しています。										
		公債費比率 (単位: %)										10%以下
年度	策定時 (平成28年度)	(平成30年度)	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
実績			7.4		7.5							
進捗状況			A		A							
[策定時] 第4次総合計画の策定時点の数値を記入しています。		[実績] 施策指標の評価対象年度における実績値を記載しています。										
8-1-2 公共施設の最適化												
施策指標 1		一般建築物の個別施設計画の策定が完了した割合 (単位: %)										
年度	策定 (平成29年度)											
実績	0											
進捗状況												
[進捗状況] ・実績に基づき、施策の進捗状況を「S」「A」「B」「C」で評価します。 記入にあたっての考え方は以下のとおりです。 S: 目標を大きく達成している、又は目標の達成に向けて計画以上に進んでいる。 A: 目標を達成している、又は目標の達成に向けて計画どおり進んでいる。 B: 目標を達成していない、又は目標の達成に向けた進捗が少し遅れているが、計画最終年度には目標を達成する見込みである。 C: 目標を大きく下回っている、又は目標の達成に向けた進捗が遅れており、取組の強化が必要である												
8-1-3 人材		※「一」としている場合は、評価対象年度には調査、把握していないものです。										
施策指標		※: 空欄の場合、評価対象年度の実績について、現時点で集計中であり判明していないものです。実績が判明した段階で評価を行い、改めて調書を公開します。										
年度	策定 (平成29年度)											
実績	5.9	4.3	3.6	1.6	2.8	6.4						
進捗状況		B	B	C	B	B						
施策指標 2		-										
年度	策定時 (平成29年度)	(平成30年度)	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
実績	-											
進捗状況												
8-1-4 ICTの利活用												
施策指標 1		ICTを活用した行政サービスの稼働休止時間 (単位: 分)										0分
年度	策定時 (平成29年度)	(平成30年度)	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
実績	144	240	0	0	0	0						
進捗状況		A	A	A	A	A						
施策指標 2		-										
年度	策定時 (平成29年度)	(平成30年度)	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
実績	-											
進捗状況												

限られた財源や人材などの行政資源が有効活用され、新たな行政課題に柔軟に対応しながら、持続可能な行政運営が行われているまち